

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和元年度）

1 学校の概要

- (1) 学校名 坂出市立白峰中学校
(2) 所在地 香川県坂出市林田町181番地1
(3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数（令和元年5月1日現在）

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
5学級 147名	5学級 163名	5学級 159名	2学級 5名	474名	34名

2 研究主題等

(1) 研究主題

生きる力をはぐくむ白峰教育
～生徒が「考え、議論する道徳」を目指して～

(2) 研究主題設定の理由

本校では一昨年度より「特別の教科 道徳」全面実施に向けて準備を進めてきた。授業時数の確保、年間指導計画の作成、全教員参加によるローテーション授業、評価研究、外部講師を招いての研修会の実施などを通して、教員の意識の高揚がみられた。その一方で、新しい教科書を使用し、毎時間初見の教材を教えることへのとまどいや、教師による見取り、評価方法の具体等についての課題も明らかになった。

昨年度まで本校では、各教科の授業において「対話的な学び」に焦点をあて、研究に取り組んできた。友だちとの対話を深めていくことで自己内対話に発展させ、各教科の目指す「深い学び」にまで高めようとするものである。「対話的な学び」は「考え、議論する道徳」につながるものでもあり、道徳についても研究授業を通して対話に関する研究を進めてきた。

今年度は、道徳教育地域支援委託事業を受け、「生徒が『考え、議論する道徳』を目指して」というテーマのもと、現職教育を実施している。道徳の授業は主として学級担任が行うものであるが、学年団の協働体制のもとで、教材研究や指導案づくりを進めていく。

(3) 研究内容及び方法

① 道徳推進のための協働体制づくり

ア 道徳団会の実施

月に1回道徳団会を設け、翌月の教材について学年団で話し合う時間をもっている。提案された指導案やワークシート等をもとに、検討を行う。1回道徳団会で、3～4つの教材を検討するために十分な時間が取れない状況ではあるが、教科書の教材をどう扱うかについて意見を交換することは、多面的・多角的な教材分析につながり、内容項目の理解のために有効であると考えられる。

また、道徳の授業（木曜日2校時）の前日に担任揃っての空き時間を設定し、道徳の授業における道徳的価値や教材研究、指導展開について検討することとした。

イ 外部講師の招聘

研究授業の際には、学年団を中心に事前の指導案検討会を実施し、授業後には、参観者全員で討議の時間を持ち、外部より招聘した指導者から指導を受けることで、研究内容や課題を共有するよう努めている。また、2学期の初めには、昨年度に続いて香川大学の植田和也教授を招き、道徳の授業づくりや評価の在り方について講話をいただいた。

ウ 教材の保管

作成した教材(指導案、ワークシート、資料、板書の写真等)をA3クリアファイルに入れて保管し、学校の共有財産として次年度以降も活用できるようにした。



【教材保管用の棚】



【教材ごとにA3クリアファイルに収納】

② ローテーション道徳の実施

本校のローテーション道徳も、今年度で3年目を迎える。これまでは、年に2回の実施であったが、今年度は、学期に1回実施することにした。下の表のように、5学級の4週間分の授業を学年団の教員で分担している。

	1組	2組	3組
5月30日	中西 遼うんだよ、健司	矢田 カラカラカラ	荒岡 松葉づえ
6月 6日	丸野 民主主義と多数決の 近くて遠い関係	中西 遼うんだよ、健司	矢田 カラカラカラ
6月13日	荒岡 松葉づえ	中西 遼うんだよ、健司	中西 遼うんだよ、健司
6月20日	矢田 カラカラカラ	荒岡 松葉づえ	石本 民主主義と多数決の 近くて遠い関係
	4組	5組	
5月30日	山城 遼うんだよ、健司	大林 カラカラカラ	
6月 6日	磯野 松葉づえ	大林 カラカラカラ	
6月13日	大林 カラカラカラ	磯野 松葉づえ	
6月20日	相附 民主主義と多数決の 近くて遠い関係	山城 遼うんだよ、健司	

【ローテーション道徳日程 2年1学期】



【ローテーション道徳を行う学年主任】

1人が1つの教材を担当し、すべてのクラスで授業を行うという方法も考えられるが、本校の学校規模では、ローテーション期間が長期に渡ってしまい、学級により指導時期に約2か月のずれが生じる場合があるため、上記のような方法をとった。また、複数の教員で同じ教材を指導することで、授業について相談したり、相互に授業を参観して教材研究を深めたりすることが可能になり、ローテーション期間については、道徳団会を開く必要がない。

ローテーション道徳のメリットとして、次のような点を実感している。

- ・ 全教員で道徳の授業に取り組む体制づくり
- ・ 担任の負担軽減、時間的・精神的なゆとりの確保
- ・ 同一授業の複数回実施による授業力向上
- ・ 空き時間により可能となった他の教員による授業参観
- ・ 複数の教員で生徒の変容を見取ることによる評価の妥当性
- ・ 生徒にとって多くの教員の考え方や生き方に触れる機会の増加

③ 「考え、議論する道徳」の授業づくり

本校でも昨年度までの「対話的な学び」の実践をもとに「考え、議論する道徳」の研究を進めている。

本校では、「対話」の対象を友人とし、ペアまたは班での活動を中心として研究してきた。「対話」を通して友だちの考えを知ること、道徳的な価値について多面的・多角的に考えることができる。そして、それは、自分の考えを友だちの考えと比較しながら、自己の生き方について考えることでもある。道徳の授業を「ひとごと」ではなく、自我関与させることが大切だといわれているが、友だちとの「対話」により自己を見つめることができる。

「考え、議論する道徳」の授業を実践するために、本年度は次の3点に重点を置いて研究を進めている。

- ・ 生徒が協働で追究したくなるような「中心発問」
- ・ 対話を深めるための「問い返し」
- ・ 学びを深めるための「振り返り」

研究授業及び日々の授業を通して実践を積み重ねて効果的な支援について共有していく。

④ 評価の在り方

道徳の評価については、まずは、評価の資料を集めるために次のような方法を試みている。

ア 毎時間の自己評価

生徒が授業の学びを振り返り、自己の変容を見つめ、成長を実感させるために、毎時間の自己評価を実施している。ワークシートの最後に、自己評価欄を設けた。項目については全授業共通である。

イ 学期ごとの自己評価

学期末にその学期に学んだ教材から印象に残ったものを3つ選び、その理由を書かせている。道徳の授業を振り返り、自らの成長に気付かせることがねらいである。

月	2, 小さな出来事	組	
日		番	

学びのテーマ 誰に対しても公平に接するためには、どんな考え方が必要だろう。

1 この「小さな出来事」が「私」に「恥を教える」、「驚かすを教える」、しかも「勇気と希望を帯てくれる」のは、どうしてだと思いますか。それぞれについて、考えましょう。

〈恥を教える〉

〈驚かすを教える〉

〈勇気と〉

〈希望を帯てくれる〉



2 授業で学んだことや考えたことをまとめましょう。

振り返ってみよう

1	今日の授業は自分のために事だった。	
2	友だちの考えを聞いて、なるほどと思ったことがあった。	
3	主人公の気持ちや行動について、「もし自分がいたら」と考えた。	
4	今日の授業で考えたことは、これからの生活に生かそうと思う。	

A 朝ではまだ B 夕方から少し高い声で話せる C あまり声ではまらない D 声ではまらない

【毎時間の自己評価】

1学期の道徳の授業を振り返ろう

年 組 番 氏名()

○1学期の授業で、心に残った順番に1～3までの番号を書いて下さい。

月日	課 目 名	順 番
1 4月11日	自分で決めるって?	
2 4月26日	自然教室での出来事	
3 5月2日	さよならの学校	
4 5月16日	ひまわり	
5	ローチェとジョン	
6 5/23, 30	いもばん真い道徳の絵	
7 6/13, 20	私の絵を聞いてね	
8	書き読んだけれど	
9 7月4日	命を大切に(人権：新聞記事)	
10 7月11日	一粒の種	
11 7月18日	鳥の巣	
12		

○順番を付けた3つの授業について、心に残った理由を書いて下さい。

順番	理 由
1	
2	
3	

【学期ごとの自己評価カード】

ウ 教師の見取り

生徒による自己評価と併せて大切にしたいのが、教師による見取りである。授業者が座席表を

活用して生徒の様子を記録するようにした。しかし、生徒がワークシートに書く2～3分で全員を同じように見取ることや、評価に役立つようなメモを取ることは非常に難しい。

そこで、副担任が授業を参観する際は、担任の机間指導の動線を追い、関わった生徒にチェックをしたり、生徒の発言をメモしたりする等、担任と共に生徒のワークシートを見ていくことで、複数の目で生徒の変容を見取り、評価の妥当性が高まるよう努めた。

さらに、机間指導をしながら生徒のワークシートに○を付けたり、よい意見にアンダーラインを引いたりすることによる見取りも有効であると実感している。

なお、通知表への評価の記載については、年度末に実施することとし、「指導と評価の一体化」を図り、教師にとって評価は、自らの授業を振り返り指導を改善するためのものであること、生徒にとっては自分の成長を見つめる場であることを共通理解し、「評価のための評価」にならないよう心がけている。

⑤ 道徳を学ぶ環境づくり

A 「道徳の日」の放送と「道徳通信」の発行

本校では、月に一度「道徳の日」を定め、朝の時間を利用して、担当教員が放送を行っている。生徒はメモを取りながら放送を聞き、最後に自分の感想を書く。さらに、感想をまとめた道徳通信を発行し、家庭へ配布している。通信では、道徳の授業についてお知らせすることもあり、保護者が学校の道徳教育を知る場にもなっている。

イ 道徳コーナーの掲示

掲示板に「道徳コーナー」を設け、「特別の教科 道徳」についての啓発の場として、また、毎月の道徳の授業を振り返る場としている。



【道徳の日の放送】



【掲示板：道徳コーナー】



【道徳通信 12月号】

3 研究実践

(1) 1年「ヘレンと共に」

ア 日時 令和元年6月13日(木) 第5校時

イ 主題 A(4) 希望と勇気、克己と強い意志

ウ ねらい

ヘレン・ケラーを支援したアニー・サリバンの生き方を通して、困難に直面しても信念をもって自らの仕事をやり遂げることの大切さやその思いについて考えようとする態度を育てる。

エ 学習指導過程

1 これまでに自分の中で「やり遂げられた」経験があるかを振り返る。

学びのテーマ：何かをやり遂げるために大切なのはどんな気持ちだろうか。

2 教材を読んで考える。

(1) アニーはどうしてヘレンと住むことにしたのか考える。

(2) 「WATER」と書いた日が「二人にとって記念すべき日」となったのはなぜかを考える。

(3) アニーの思いについて考え、班で意見を交流する。対話

中心発問：アニーが、ヘレンに対して「心を込めて尽くした努力」ができたのはなぜだろうか。

3 各班の発表を聞き、全体で考えを共有する。対話

4 本時の学習を振り返り、「私の気付き」を記入する。

オ 授業を振り返って

ヘレン・ケラーと、家庭教師アニー・サリバンの話である。ヘレンが初めて「ものには名前がある」ということを理解することができた「WATER」のエピソードを中心に描かれている。アニーが困難に出会ってもあきらめずにヘレンと共に努力を続けたのはなぜかを考えさせ、強い意志をもち続けた背景には、ヘレンへの思いや、自分自身の体験等があったことにも気付かせた。授業者が生徒の意見をしっかりと聞き、ていねいに問い返しをする姿が見られた。授業後の討議会では「考え、議論する道徳」に必要なのは、「温かく聞き、優しく話す」ことであるとして指導をいただいた。教師が「問い返し」の手本を見せることで、生徒の対話がよりよいものになっていくだろう、と思わせる授業だった。



【4人班でまなボードを用いて対話する様子】



【教師の問い返しにより班での対話を全体で深める】

(2) 2年「松葉づえ」

ア 日時 令和元年6月13日(木) 第5校時

イ 主題 B(6) 思いやり、感謝

ウ ねらい

本当の意味での「思いやりの心」とは自己満足ではなく、相手のことを思う心から生まれることに気付き、他者に対する理解と共感をもって接しようとする実践意欲を育てる。

エ 学習指導過程

1 他者から思いやりを受けた経験を話し合う。

学びのテーマ：「思いやり」とはどういうものだろう。

2 「松葉づえ」を読んで考える。

(1) 僕、今井さん、上田さんがどんな思いで大野君に声をかけたのか考え、全体で共有する。

(2) 「誘ってくれてありがとう」と言った大野君の感謝の言葉を「僕」が素直な気持ちで聞けなかったのはどうしてか考える。

中心発問：伊藤君の言葉を聞いて、「僕」が気付いたことはなんだろう。

(3) 伊藤君の「みんな、誰のために大野を助けてやってたんだよ。」という言葉を見て、「僕」が気付いたことは何かを考え、班で話し合う。対話

3 本時のまとめをする。

オ 授業を振り返って

クラスに松葉づえを突いた転校生が来た。最初は親切にしていたクラスメートたちだったが、大野君がいろいろな場面で能力を発揮し始めたために態度を変えてしまうという教材である。

教師の手描きの人物絵を用いて要領よく場面理解を進め、対話の場面に時間を取り、じっくりと考えさせた。班で話し合い、まとめた意見を吹き出しに書かせた。さらに、それを発表させる際に、板書で思考を可視化し、全体で共有化を図った。終末では、導入で利用した「思いやりとは何か。」を考えさせるための3つの事例を活用し、もう一度、本時のねらう価値項目について考えさせた。生徒からは、「自分勝手に、思いやりの意味が分かっていなかった」「伊藤君のおかげで気付くことができた」などの意見が出て、ねらいに迫ることができた。



【板書で価値に迫る思考の可視化】



【導入の板書を終末でも活用】

(3) 3年「あの日生まれた命」

ア 日時 令和元年6月13日(木)第5校時

イ 主題 D(19)生命の尊さ

ウ ねらい

東日本大震災の日に出産した「お母さん」の心情の変化を通して、命を大切にすることはどういうことかを考え、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする道徳的心情を育てる。

エ 学習指導過程

1 自分の経験を振り返る。

(1) 「命」について考える。

(2) 東日本大震災の映像を見て概要をつかむ。

学びのテーマ：命を大切にすることはどういうことか。

2 教材に基づいて話し合う。

(1) 子どもの誕生を素直に喜ぶ気持ちになれないお母さんの気持ちを考える。

中心発問：お母さんは、なぜ娘が生まれたことを素直に喜べるようになったのだろう。

(2) 班で意見を交流し、全体で発表する。対話

3 道徳的な価値を通して自己を振り返る。

(1) 授業で学んだことや考えたことをまとめる。

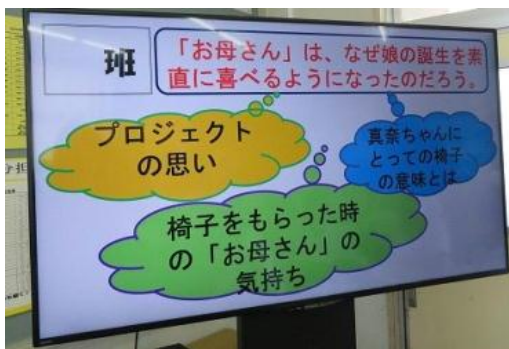
(2) 自己評価カードに記入する。

オ 授業を振り返って

東日本大震災の日、ひとつの命が生まれた。ところが、直後に起こった大震災で祖母を亡くし母親は、娘の誕生を素直に喜べなかった。しかし、「希望の君の椅子」プロジェクトから贈られた椅子を通して、複雑な気持ちを抱えてきた母親が少しずつ変わっていくという教材である。

中学生にとって、生命についての実体験は少なく、教材化は難しい。そこで、本時の授業では映像で生命が失われる現実の厳しさを感じ取らせた。さらに、3つの視点を与えて、母親の心の変化について多面的・多角的に考えさせる工夫をした。

最後の教師による説話では授業者の体験が語られ、生徒はもう一度違う角度から生命尊重という本時のねらいについて考えることができた。



【 対話のための3つの視点 】



【 追発問をもとに班での対話を深める 】

(4) 2年「秀さんの心」

ア 日時 令和元年9月9日（月）第5校時

イ 主題 B（7） 礼儀

ウ ねらい

礼儀とは、相手に対して尊敬や感謝などの気持ちと形が一体となって成り立つものであることを理解させ、他者への敬愛の気持ちをもって接しようとする実践意欲と態度を育てる。

エ 学習指導過程

- 1 体育館に入る際の一礼はどのような気持ちで行っているのかを話し合う。

学びのテーマ：礼儀にはどのような意味があるのだろうか。

- 2 木への礼儀として、深々と頭を下げる秀さんの心を考える。

中心発問：礼儀とはどのようなものだろうか。

- 3 熱いものが込み上げてきたときの昌夫の気持ちを考える。

- 4 礼儀とはどのようなものかについて考え、班で話し合う。 対話

(1) 礼儀に欠かせないもの

(2) 礼儀のもつ力

- 5 本時のまとめをする。

オ 授業を振り返って

職場体験学習の事前指導として、道徳の授業で礼儀について考えさせた。職場体験学習初日、いいかげんな礼しかできなかった昌夫だが、木に一礼をして仕事に臨む秀さんから、本当の礼儀とは何かを学ぶという教材である。

教材を読んで秀さんや昌夫の心情を考え、「礼儀とはどのようなものだろうか。」という中心発問を考えるために、赤の付箋紙には秀さんと自分の共通点、青の付箋紙には相違点を書き出し、班での対話に用いた。さらに、話し合いの内容を発表させて板書にまとめ、礼儀には心と形の両面があることに気付かせた。

そして、「礼儀のもつ力にはどんなものがあるか」と問いかけ、再び班で対話をさせ、短い言葉で短冊にまとめさせることで、礼儀についてより深く考えることができた。



【赤と青の付箋を用いて比較しながら思考を深める】



【座席表を持ち、班で対話する生徒の様子を見取る】

(5) 1年「鳥が見せてくれたもの」

ア 日時 令和元年11月6日(水) 第5校時

イ 主題 D(20) 自然愛護

ウ ねらい

「私」の心情の変化を考えることを通して、自然を大切にすることの意義を理解し、自然との共生を目指す実践意欲と態度を育てる。

エ 学習指導過程

- 1 スライドを見て、本時の学習内容を予想する。

学びのテーマ：自然愛護のために大切なのは、どんな気持ちだろうか。

- 2 教材を読んで考える。

- (1) 「私」の心の声を想像する。

- ① 「鳥に会いに来てるの。ついでにごみを拾ってるんだよ。」
- ② 「明日からいっしょにごみ拾いをしてもいいかな。」
- ③ 「すごい…。」

中心発問：私が、奈々美に対して共感できたのはなぜだろうか。

- (2) 「私」の気持ちの変化について考える。 対話

- 3 映像資料を見て、自分たちにできることを考える。

オ 授業を振り返って

この教材は、友人のごみ拾いを手伝った際に傷ついた鳥を助けた主人公が、壮大な自然に触れることで気持ちを変化させていく内容である。

まず、導入で、ストローが刺さったウミガメや泥まみれになった海鳥の映像などを見せた。次に、事前アンケートの集計結果を示し、クラスの実態を明らかにすることで、問題意識を高め、その上で、「自然愛護のために大切なのはどんな気持ちか。」について考えさせた。

班での対話の前には、個人思考の時間を取り、生徒のよい意見にアンダーラインや○を付けながら机間指導を行い、個別に賞賛したり肯定的な助言を行ったりした。生徒は自信をもって班での対話に臨み、互いを認め合う活発な意見交換が行われた。

中心発問を考える場面でマガンの群れが一斉に飛び立つ動画を視聴させた。生徒は自然の壮大さに感動し、主人公の心情の変化に共感するとともに、自然愛護への思いを深めることができた。



【導入で用いた映像資料】



【机間指導による生徒の思考の見取り】

(6) 3年「命の選択」

ア 日時 令和元年11月6日(水)第5校時

イ 主題 D(19)生命の尊さ

ウ ねらい

命を選択することについて自分なりの意見を持ち、違う立場の意見に触れることで、命について多面的・多角的に考えさせ、生命を尊ぶ心情を育てる。

エ 学習指導過程

1 「命はなぜ大事か」について考える。

学びのテーマ：後悔のない「命の選択」はできるのだろうか。

2 教材を読み、延命措置についての説明を聞く。

3 祖父と父母の選択について考える。

中心発問：あなたなら、大切な人の延命措置をするだろうか。

4 自分にとって大切な人の延命措置をするかどうか考える。対話

5 「命の選択」について考えたことをまとめる。

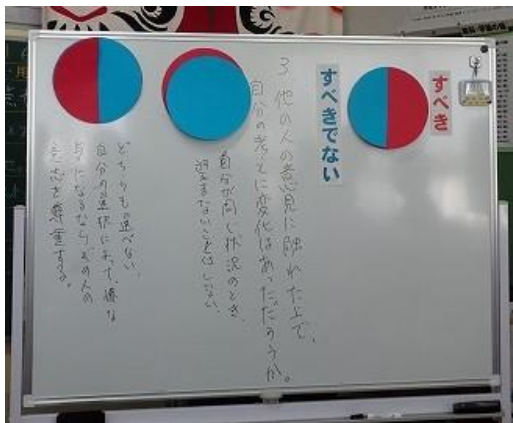
オ 授業を振り返って

本教材は、延命治療を望まなかった祖父に対し、病気に苦しむ祖父をそのままにできず延命治療を選択した父母が「これでよかったのか」と悩む姿を「僕」の視点から描いたものである。

導入で、人工呼吸器の映像資料を見せ、装着することによるメリット・デメリットについて説明し、「あなたなら大切な人の延命措置をするかどうか。」について考えさせた。その際、心情円盤を用いて、自分の考えを示させた。

班の対話の場面で机間指導を行い、「延命しないという選択は命を粗末にしていないか。」「延命するということは祖父の意志を尊重していないのでは。」など、教師からの生徒への問い返しを行うことにより、多面的・多角的に考えた活発な意見交換へとつながった。

班活動後には、もう一度自分の意見を心情円盤で示させ、思考の変容が見えるようにすることで、生命尊重という価値について考えを深めることができた。



【心情円盤で自分の考えの変容を可視化】



【席を離れて自由に意見を交換】

4 研究の成果と課題

(1) 成果

「特別の教科 道徳」が全面実施になり、週に1度の道徳の授業の準備に追われる毎日が続いている。月に1度、道徳団会を開き、学年団の教員で授業の流れを考える時間をもっているが、「そもそも親切ってどういうことだろう」「延命措置は、本当の意味での生命尊重か」という、道徳的価値を考える段階で行き詰まり、中心発問についても明確な答えが見つからないことが多い。もやもやしたものを抱えながら授業の日を迎え、授業直前に授業者同士が相談する姿が見られ、また、授業後の休み時間には、「あの中心発問でよかったのか」「生徒の～という意見から気付かされた」などという会話が聞こえてくる。また、授業を参観した教員（おもには副担任である先輩教員）が授業者にアドバイスをする光景も見られた。職員室の会話に道徳の授業に関する話題が増え、先生方が課題意識をもって道徳の授業に取り組んでいることがうかがえる。全教員の協働体制のもとで研究を進めてきた結果、道徳の授業づくりを通して同僚性が深まってきていることが一番の成果であると感じている。

また、担任として日々の道徳の授業を行っている若年教員にとって、道徳の授業づくりのために教材研究を行ったり、他の教員と意見を交換したりすることで教材分析力や授業力の向上につながり、実践的な研修の場となった。

(2) 課題

研究授業では一定の成果が出ているものの、日常の授業においては、「考え、議論する道徳」にまで至らないことも多い。教材分析や価値分析で悩んでいるため、授業のねらいや発問がぶれたり、生徒の意見を十分引き出せず、対話が深まらなかったりする授業もある。

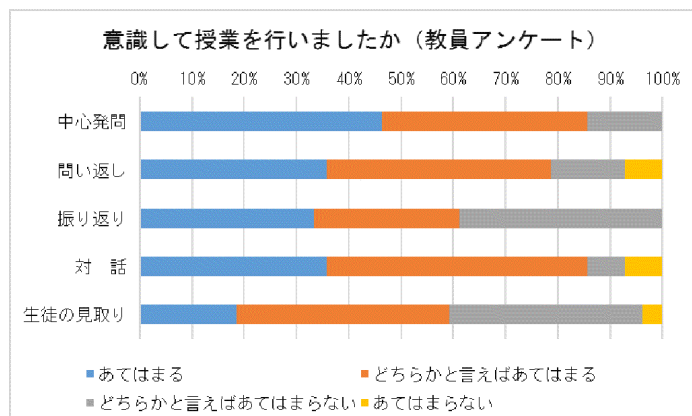
道徳の授業づくりについて、今年度の課題として研究を進めてきたのは「中心発問」「問い返し」「振り返り」である。12月に本校の教員を対象に下のようなアンケートを行った。教員が意識して行った割合が高かったのが「中心発問」と「対話」であった。「中心発問」については、教科書や指導書の「中心発問」を参考にしながらも、よりよい発問にするために日々悩んでいる項目である。「対話」は、この数年各教科で研究を進めてきていることもあって、道徳科でも意識して取り組んでいる項目である。対話を深めるための様々な工夫について、各教科の中でさらに研究し、道徳の授業に生かしていきたい。

肯定的な回答の割合の低かった「振り返り」については、1時間の授業の中で十分な時間が取れないこと、また、「生徒の見取り」についても、授業を進めるのに精一杯で、生徒を細かく見取る余裕がないことの現れでもある。これらの項目についてさらに研修を深めていく必要がある。

また、研究を推進する中で、新たに価値分析・教材分析をどう進めていくかという新たな課題が生まれた。指導要領解説の価値項目の内容と資料をしっかりと読み込み、授業づくりを行いたい。



【先輩教員から後輩へアドバイス】



【教員へのアンケート（12月）】